



2012年3月8日

アルピコ交通株式会社
代表取締役社長 古田龍治様

社団法人 日本建築家協会(JIA)
関東甲信越支部支部長 加藤 子
同保存問題委員会委員長 知子
同長野地域会会長 吉人

新村駅舎の保存・活用に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

貴社におかれましては日頃より交通文化の発展と継承に深くご理解を示されていることに敬意を表します。

私ども日本建築家協会では、地域の文化を形成する重要な役割を建築が担っていることを認識し、また、それぞれの建築物は永く使い続けられることによってこそ、文化と歴史が継承されると考え、今まで数多くの建築に対し保存・活用の提言を行って来ました。

さて、貴社所有の上高地線 新村駅舎の建替えは、現在 既存の駅舎に隣接して新駅舎が3月中の完成を目指して工事が進んでいる状況とお聞きします。

ご高承のとおり、当駅舎は大正10年(1921年)上高地線の前身である筑摩鉄道が開業した当時の姿を今に伝える唯一の現役木造駅舎です。当時の鉄道のシンボルマークや切符売り場、改札口、木製ベンチ、特注の瓦、レリーフ等も当初のまま残り、周辺施設も含め、鉄道駅舎建築の変遷を知る上でたいへん貴重な文化的遺産です。

筑摩鉄道の創業者 上条 信 氏は、大変苦勞して松本から新村そして島々まで鉄道を引かれたとお聞きします。氏は新村出身であり、上高地線はこの新村から始まったとも言えます。そのような新村駅は、地域の人々にとって子供の頃から見慣れた原風景であり、何代にもわたり生活を共にした、愛着のこもった宝物です。地元の保存活用の気運もすでに高まって来ています。

また鉄道ファンにとっては周辺の景観や鉄道施設も含めて大変人気の高い駅です。この駅にあえて降り、写真を撮って行く人も多く、今後、観光対象となる大事な資源になることは間違いありません。

解体することは簡単ですが、一度壊してしまった建物を元に戻すことはできません。

貴社の皆様にとっても鉄道マンとして長年大切にされて来られ、また貴社設立のルーツとなる看板駅ですので、できることなら残したいと思っておられるのでは、と拝察いたします。

まずは残す決断をして頂き、使い方は地域の利用者と一緒に考えて頂けるよう、ここに当協会としてお願いする次第です。

現在の位置に残すことにより、建設中の新駅舎と並んで大きさも高さも概ね揃った親子駅舎のようにもなります。位置を変えずに残そうと思えば、あまり多くのお金を掛けずに補強や改修ができるはずで、また新駅舎の直近ならではの新旧の歴史の見え方を利用する等、活用方法も色々と考えられます。

当協会としましても、新村駅舎の保存・活用に関し、できる限りの協力をさせて頂く次第です。

新村駅舎が貴社や市民に愛され、いつまでも記憶に残る景観として永く継承されることを心より願っております。

社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects
関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA 館
Tel.03-3408-8291 Fax 03-3408-8294

敬具